

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
105-69	中学校	外国語	英語	第1学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
9 開隆堂	英語 009-72	Sunshine English Course I		

1. 編修の基本方針

教育基本法、学校教育法を精神を教材の中で具体化するとともに、学習指導要領に示された目標と内容に沿って、外国語を使って豊かなコミュニケーションを図る資質・能力を養うことを目指し、以下の基本方針を設定しました。

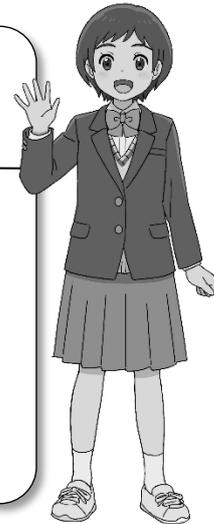
自ら考え、行動し、目標に向かって主体的に学習が進められる教科書

小学校での外国語（英語）の基礎の上に立って、いっそうコミュニケーション能力を伸ばすために、「話すこと」を軸にして4技能5領域の能力を総合的に扱い、統合的に活用して思考力、判断力、表現力を育成する構成です。また、我が国と諸外国の伝統や文化を尊重する態度を育成します。

1

生きたコミュニケーション能力が身につき、自己肯定感を育みます。

1. 身の回りの場面から社会的な場面まで、自分のことばとして英語を使う力がつきます。
2. 「何のために」「だれに向けて」を意識したコミュニケーション活動が実施できます。
3. 即興でコミュニケーションができる能力を育みます。



●主人公
古瀬 真央

2

確かな学力が身につきます。

1. 学習事項について、生徒に気づきを促し、自律的な学習者を育てます。
2. 3年間を見通した学習を可能にしています。
3. 知識・技能を習得し、それを活用して課題を解決する力が身につきます。

3

「地球市民」としての豊かな感性を育みます。

1. 日常生活だけでなく、他国の自然や動物に関する話題を扱い、環境の保全に寄与する意識を育てる題材を精選しました。
2. 自国の伝統と文化を尊重するとともに、他国も尊重し、国際社会に寄与する意識を育てる題材を配置しています。

1

生きたコミュニケーション能力が身につき、自己肯定感を育みます。

1. 身の回りの場面から社会的な場面まで、自分のことばとして英語を使う力がつきます。

本教科書では、各学年に3か所（※3年生のみ2か所）に、統合的なパフォーマンス活動を行う Our Project を設けています。場面と内容は発達段階に応じて徐々に難易度を上げ、最終的には社会的な場面で自分のことばとして英語を使う力を育てます。

Our Project 一覧	身の回りの場面		社会的な場面
	1年生	2年生	3年生
	① 自己紹介 (あなたの知らない私) ② 他者紹介 (この人を知っていますか) ③ Show & Tell (私が選んだ1枚)	④ グループプレゼンテーション (海外でヒットするラーメンのCMを作ろう) ⑤ ポスター発表 (日本のおすすめスポットを紹介しよう) ⑥ 尊敬する人物についてのスピーチ (My Heroの魅力を伝えよう)	⑦ ポスターセッション (パラスポーツについて知ろう) ⑧ ディスカッション (レストランにSDGsの取り組みを提案しよう)



2. 「何のために」「だれに向けて」を意識したコミュニケーション活動が実施できます。

活動には場面性をもたせ、ペアやグループで行う活動を数多く設定することで、目的と相手を意識したコミュニケーション活動が行えるように配慮しています。

3 次の①と②の状況のとき、店員役と客役に分かれてペアで話しましょう。

- ① 父親にセーターを買いたい。店員は茶色をすすめてきたが、緑がほしい。セーターの値段は49ドル。
- ② 友だちにハンカチを買いたい。店員は黄色をすすめてきたが、赤がほしい。ハンカチの値段は6ドル。

(p.108 Power-Up 4)

3. 即興でコミュニケーションができる能力を育みます。

通常課 (PROGRAM) には、即興でのコミュニケーション活動を行う Small Talk のコーナーを3か所ずつ設けました。これを積み上げていくことで、Our Project において書いた原稿を読み上げるのではなく、メモをもとに発表したり、友だちの発表に対して即興で質問やコメントなどの「やり取り」をしたりする力が身につきます。

Small Talk 好きなことや苦手なことについて話そう。

Small Talk 友だちにふだんすることを聞いてみよう。

(p.32, 38)

好きなこと・苦手なこと

▶ p.32

I like painting very much.
I don't like cleaning.

(p.172)

2

確かな学力が身につきます。

1. 学習事項について、生徒に気づきを促し、自律的な学習者を育てます。

新出表現の導入は2コマのマンガ形式で示すことにより、文字が読めなくても、イラストや音声を頼りに内容を推測できるように配慮しました。また、基本的には文法シラバスで構成されていますが、Small Talkのコーナー（p.2参照）には既出表現を繰り返し使う機会を設け、スパイラルな学習ができるように配慮しました。



2. 自己の学習状況を確認し、今後の学習に生かします。

各課で「できるようになったこと」を確認する「CAN-DO リスト」を巻末に掲載し、自分が身につけたことの軌跡がわかるようにしました。理解度を3段階で確認できるようにしているため、定着が弱いと感じたものについても復習しやすくなっています。

PROGRAM 1		友だちを作ろう					Grammar Points
できること	聞いてわかる	読んでわかる	伝え合える	伝えられる	書ける		
自分や相手の名前などについて	☺ ☺ ☺	☺ ☺ ☺	☺ ☺ ☺	☺ ☺ ☺	☺ ☺ ☺	be 動詞	
相手の出身地などについて	☺ ☺ ☺	☺ ☺ ☺	☺ ☺ ☺	☺ ☺ ☺	☺ ☺ ☺	be 動詞(疑問文)、 「どこ」とたずねる文	

(p.168 CAN-DOリストの一例)

3. 知識・技能を習得し、それを活用して課題を解決する力が身につきます。

知識・技能を活用し、実際のコミュニケーションをする能力の育成をより重視しました。本教科書の Our Projectをはじめ、Power-Up、通常課のActionのコーナーでは、「メモを活用してスピーチする能力」、「伝え合う能力」、「英文を書く能力」を段階的に身につけられるような活動を数多く設定しています。

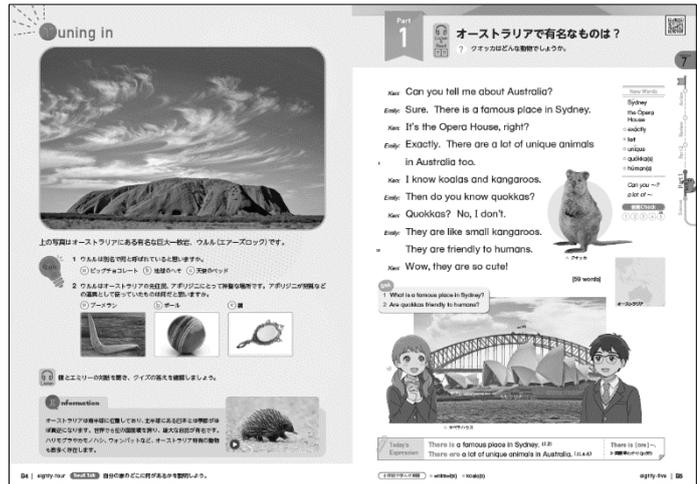
3

「地球市民」としての豊かな感性を育みます。

1. 日常生活だけでなく、他国の自然や動物に関わる話題を扱い、環境の保全に寄与する意識を育てる題材を精選しました。



(p.81, 84-85)

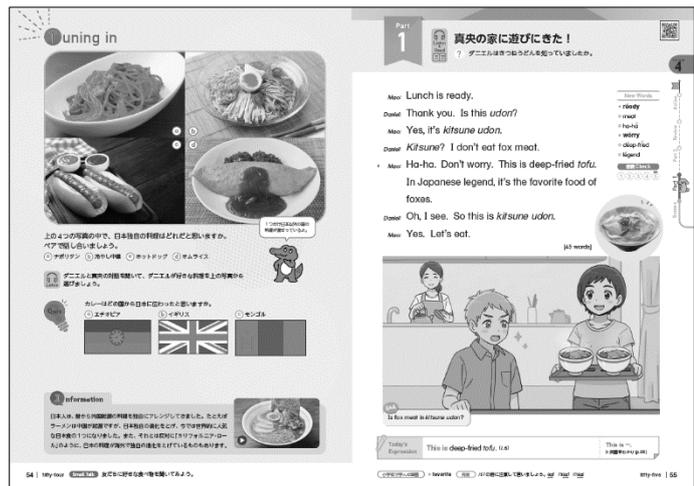


オーストラリア固有の動物であるクオッカや、世界遺産であるウルル、グレートバリアリーフを題材に取り上げました。海外への視野を広げるとともに、環境を大切にすることを育みます。

2. 自国の伝統と文化を尊重するとともに、他国も尊重し、国際社会に寄与する意識を育てる題材を配置しています。



(p.51,54-55)



日本の食文化を題材に取り上げました。ほかにも、海外の学校行事やフィンランドなどを取り上げ、国際理解を深めつつ、英語で自国の文化を発信できる力を養います。

☞ その他の題材については、p.5 参照

2. 対照表

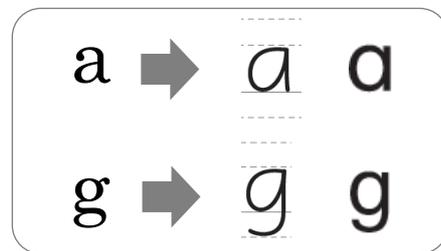
※ Prog...PROGRAM OP...Our Project

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所
Get Ready	小学校でできるようになったことを確認しよう	小学校で学習したことを復習しながら友だちとやり取りすることで、幅広い知識と教養を身につける態度を養います（第1号）。	pp.7-19
Prog. 1	友だちを作ろう	自己紹介の場面を通して、自他の敬愛の精神を培い、主体的に社会の形成に参画する態度を養います（第3号）。	pp.21-27
Prog. 2	1-B の生徒たち	英語の基本的なやり取りを学ぶことで、積極的に友だちと関わり合おうとする、豊かな情操と道徳心を身につけます（第1号）。	pp.29-35
Prog. 3	タレントショーを開こう	タレントショーを通じて友だちが得意なことを発見することで、自他を敬愛する精神を養います（第3号）。	pp.37-43
OP 1	あなたの知らない私	友だちが知らない自分のことを紹介することで、個人の価値を尊重する精神を養います（第2号）。	pp.45-49
Prog. 4	Let's Enjoy Japanese Food.	日本の食文化について英語を通して知ることにより、伝統と文化を尊重し、わか国と郷土を愛する精神を養います（第5号）。	pp.51-59
Prog. 5	Pajama Day	チャリティー活動を目的とした他国の学校行事やイベントについて学ぶことで、主体的に社会に参画する態度を養います（第3号）。	pp.61-69
Prog. 6	The Way to School	ケニアで困難を克服しながら通学する少年について学び、自主的及び自律的に学習に向かおうとする意欲を養います（第2号）。	pp.71-79
Prog. 7	Research on Australia	南半球にあるオーストラリアの自然や文化を学ぶことで、他国を尊重し、自然を大切にすることを意識を養います（第4、5号）。	pp.81-89
OP 2	この人を知っていますか	他者紹介をし、友だちの発表を聞くことで、新たな知識を得て幅広い知識と教養を身につけることができます（第1号）。	pp.93-97
Prog. 8	Happy New Year!	日本や海外の、その国ならではの年末年始の過ごし方を知ることにより、他国を尊重し、国際社会の平和に寄与する態度を養います（第5号）。	pp.99-107
Prog. 9	A Trip to Finland	フィンランドの文化、自然を学ぶことで、国際人としての自覚をもち、他国を重んじて自然を大切にすることを意識を高めます（第4、5号）。	pp.109-118
Prog. 10	Grandma Baba's Warming Ideas!	日本の物語『いばばあちゃん』を味わい、紙芝居で演じることで、豊かな情操と道徳心を培います（第1号）。	pp.123-133
OP 3	私が選んだ1枚	自分が選んだ写真や絵を英語で紹介することで、個人の価値を尊重し、創造性を培います（第2号）。	pp.135-139

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1. すべての生徒が学習しやすい紙面づくり

カラーユニバーサルデザインの考え方や特別支援教育の視点を取り入れ、紙面を構成しました。識別しづらい色遣いは避ける、文字を極力大きくする、手書き文字に近い欧文フォントを2種類開発する、日本語のフォントはUDフォントを使用するなど、すべての生徒が無理なく学びやすい紙面づくりを目指しました。



2. 造本・体裁など

造本は丁寧で堅牢です。また、環境に配慮した用紙やインキを使用しています。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
105-69	中学校	外国語	英語	第1学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
9 開隆堂	英語 009-72	Sunshine English Course I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

習得した**知識・技能**を活用して、

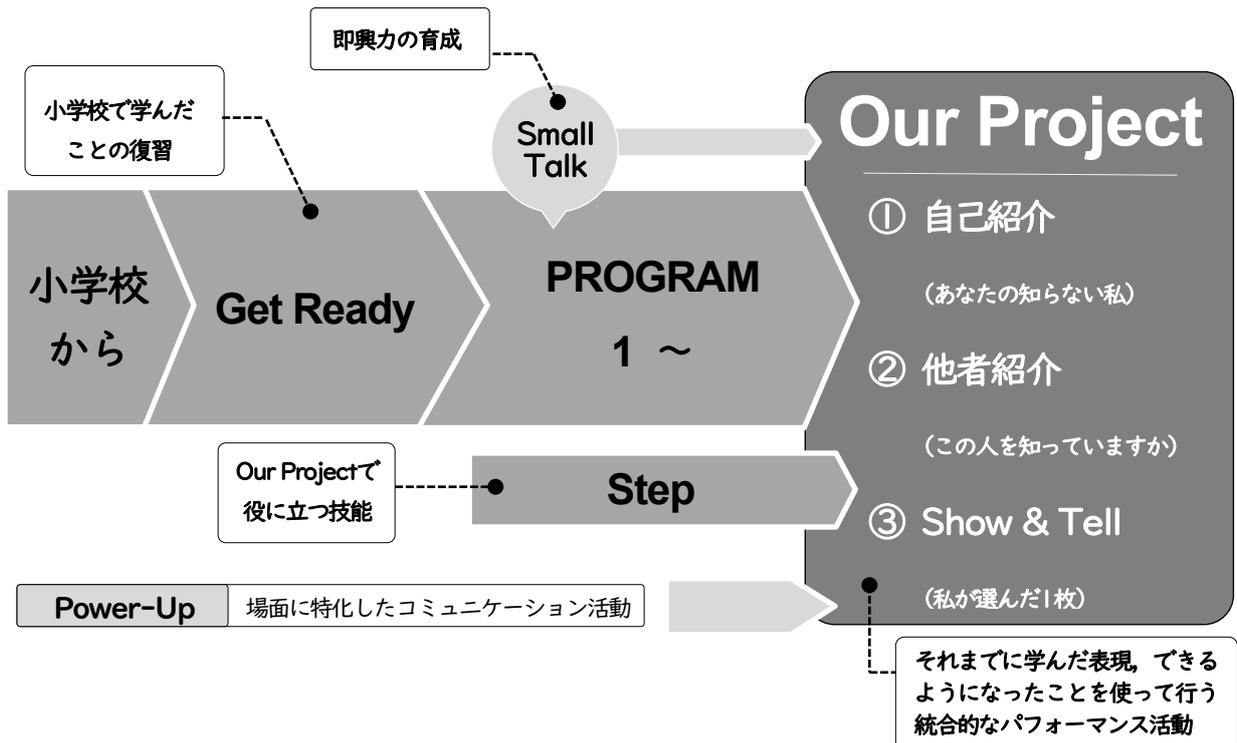
自ら**思考・判断・表現**することで、

学びに向かう力と

豊かな**人間性**を育てる教科書です。



全体の構成 Our Projectを軸として、目標に向かって主体的に学習が進められる構成です。



Our Project 4技能5領域を統合的に活用し、「コミュニケーションできる」喜びを実感できます。

習得した**知識・技能**を使って、自ら原稿を考え（**思考力**）、内容を取捨選択する判断をし（**判断力**）、自己表現（**表現力**）することで自信をつけます。

モデルの理解・分析 → 構想を練る・メモの作成 → リハーサル・原稿の修正 → 本番と振り返り



「聞く」「読む」を通して、モデルを理解・分析します。



「書く」「発表」を通して、構想を練ります。



「書く」「読む」「発表」を通して、原稿を洗練します。



「発表」し、自分や友だちの発表を振り返ります。



(pp.46-49 Our Project 1)

マッピングなど、Our Projectで役に立つ技能は事前にStepのコーナー（下記参照）で学習します。



1年生では、小学校英語で学んだことをどんどん使うことを推奨しながらも（fluency）、基本を大事にするために正確性（Accuracy）を重視した構成としています。

Go!

聞き手をひきつける話し方を促すとともに、友だちの発表を聞く際に気をつけたい **Good Listenerのポイント**も記載しました。

最後には「**自分の発表や、友だちの発表から学んだことを振り返る活動**」を設け、**協働的な学び**ができるように配慮しました。

Step コミュニケーションに役立つ知的生産の技術を会得します。

マッピング、**スピーチの構成**、**上手な発表のコツ**など、Our Projectに**連動**した内容を学習します。Our Projectの活動にスムーズに取り組める力をつけることができます。



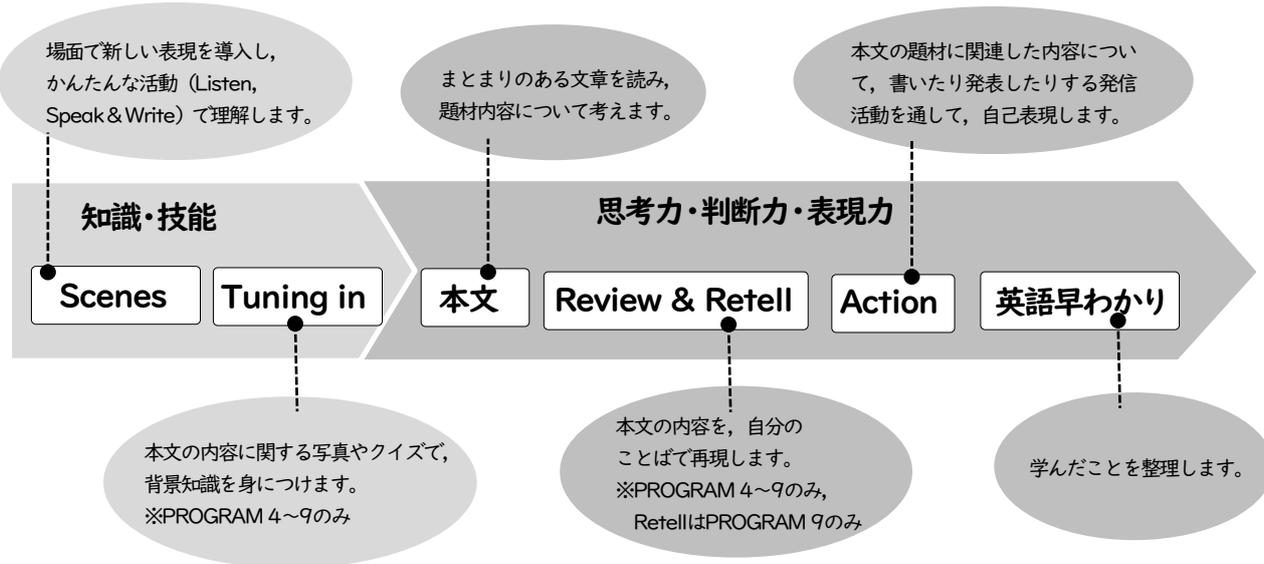
- ① 「アイデア出し」
 - ② 「話題ごとに分類」
 - ③ 「話したい順に並べかえ」
- のスモールステップで、アイデアのスピーチへの生かし方を丁寧に扱っています。



(p.44 Step 2「考えを整理し、表現しよう」より)

PROGRAM

学習指導要領の3つの柱の可視化を図り、基礎学力を向上させます。



各コーナーの工夫

Scenes

新出表現をマンガ形式で示すことにより、どのような目的や場面、状況で使われる表現かが一目でわかるようにしました。また、対話は2ターンを基本としており、ミニマムエッセンスで新出表現を理解できるように配慮しました。



(p.110 PROGRAM 9)

Tuning in

本文の題材に関連した写真やクイズ、雑学を掲載しました。内容についての興味・関心を喚起することで、主体的な学びを促します。



(p.64 PROGRAM 5)

本文

Q&Aでは、本文の内容から推測して答える推量発問を適宜設けました(下記参照)。また、本文の最終セクションには、Think(右記参照)というオープンクエスチョンを設けました。生徒に「多様なものの見方」を働かせることを促し、「深い学び」を支援します。

Q&A

- 1 What is Emily doing?
- 2 Does Emily want the cake? ..?

Think

あなたは、年末年始をどのように過ごしますか。

(左右とも p.104 PROGRAM 8)

Review & Retell

スモールステップで本文の要点を確認し、無理なく自分のことばで本文の内容を伝える活動としました。

また、友だちの発表を聞いて、「こんなことも言うことができた」「こんなふうに表現すればよかったのか」という気づきを促し、**自律的な学習者**を育てます。

Step 1 日本語やキーワードをヒントに、次の絵や写真に当てはまるセリフをペアで考えましょう。

Step 2 Step 1で作った文をすべてつなげて書いましょう。主語がIの文は、具体的な人物名に変えましょう。

Retell Step 3 Step 1で作った文以外に、足せる文があったら足してすべてつなげて書いましょう。

2回目以降、Mikiはsheで置きかえると自然だよ。

(p.116 PROGRAM 9)

Action

本文の題材と関連したトピックで行う言語活動としました。

また、「自分の意見は理由をつけて話す」ことを促し、**主体的かつ対話的な学び**ができるように配慮しました。

Step 1 Read エミリーが考えた動物園の提案を読みましよう。

There are two quokkas in front of the gate. They are very popular. There are two turtles in this zoo. The cost of their feed is low.

(p.88 PROGRAM 7)

Get Ready

小学校で蓄積した知識・能力を定着させ、それを生かしてさらに伸ばします。

Get Ready 小学校でできるようにしたことを確認しよう

(p.7)

音声を「聞く」活動から入ります。

1. 先生や友だちが指さしたものを英語で書いましょう。対話を聞いて、話している人たちの記号①～④を指さしましょう。3. 町にかけられている次の人物を探し、それぞれがいる場所をペアの相手に伝えましょう。

(p.8)

小学校での既習事項を確認するページを計13ページ(6時間分)確保しました。

小学校の時点で、英語に苦手意識をもってしまっている生徒にも「**やり直せる**」という安心感と「**できた**」という達成感を与えることができるように、やさしいアプローチから入れるようにするとともに、英語が得意な生徒が**意欲的に取り組めるような活動**も設けています。

文字と音の関係について確認します。

Get Ready 5 アルファベットを確認しよう

1. 英語を聞いて、アルファベットの名前読み、音読み、単語の発音を確認しましょう。2. 英語を聞いて、読まれたものを絵の中から探して指さしましょう。

A a apple / angel	B b bear	C c cat / cider	D d doctor
E e egg / evening	F f fox	G g gorilla / giant	H h hat

(p.16)

2. 対照表

※ Prog…PROGRAM OP…Our Project PU…Power-Up

図書の構成・内容		おもな言語材料など	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時間
Get Ready	小学校でできるようになったことを確認しよう	小学校英語の復習	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア (3)①ア, 3(1)(2)(3)	p.7-19	6
Prog. 1	友だちを作ろう	I'm (not) ~. You are ~. / Are you ~? Where ~?	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①ア・イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.21-27	5
Prog. 2	1-Bの生徒たち	I (don't) have ~. / Do you ~? When ~?	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①ア・イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.29-35	5
アクションコーナー		命令文, 否定命令文	2(1)ア・イ・ウ・エ (3)①エ ②イ	p.36	1
Prog. 3	タレントショーを開こう	canの文	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①ア・イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.37-43	5
Step 1, 2	発表上手になろう 考えを整理し, 表現しよう	即興力の養成, 情報整理の仕方の学習	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①ウ・オ・カ ②イ, 3(1)(2)(3)	p.28, 44	各1
OP 1	あなたの知らない私	自己紹介	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)イ・ウ (3)①イ・ウ・エ・オ・カ ②ア・イ, 3(1)(2)(3)	p.45-49	4
Prog. 4	Let's Enjoy Japanese Food.	Is that~? No, it isn't. This is ~. / Who is ~? She is ~.	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①ア・イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.51-59	5
Prog. 5	Pajama Day	She (doesn't) cook(s) ~. / Does he make ~? Yes, he does.	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.61-69	5
Prog. 6	The Way to School	him, her / Why ~? Because ~.	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①ア・イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.71-79	5
Prog. 7	Research on Australia	There is [are] ~. / How~?	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①ア・イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.81-89	5
疑問詞のまとめ		疑問詞の復習	2(1)ア・イ・ウ・エ (3)①エ	p.90	1
Step 3, 4	話の組み立て方を考えよう 聞き上手になろう	即興力の養成, 情報整理の仕方の学習	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①イ・オ・カ ②イ, 3(1)(2)(3)	p.80, 92	各1
OP 2	この人を知っていますか	他者紹介	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)イ・ウ (3)①イ・ウ・エ・オ・カ ②ア・イ, 3(1)(2)(3)	p.93-97	4
Prog. 8	Happy New Year!	現在進行形	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.99-107	5
Prog. 9	A Trip to Finland	一般動詞の過去形 (規則・不規則型)	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①ア・イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.109-118	8
Prog. 10	Grandma Baba's Warming Ideas!	be動詞の過去形, 過去進行形	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①ア・イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.123-133	8
Step 5, 6	発表用メモを活用しよう 絵や写真を英語で表現しよう	即興力の養成, 情報整理の仕方の学習	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①エ・カ ②イ, 3(1)(2)(3)	p.119, 134	各1
OP 3	私が選んだ1枚	Show & Tell	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)イ・ウ (3)①イ・ウ・エ・オ・カ ②ア・イ, 3(1)(2)(3)	p.135-139	4
PU 1~6	ハンバーガーショップへ行く う/持ち主をたずねよう 他	食事や道案内などの特有の場面でのやり取りの学習	2(1)ア・イ・ウ・エ (3)①イ・ウ・エ・カ ②ア, 3(1)(2)(3)	p.50, 70, 91, 108, 122, 140	各1

計88 (時間)